

「五條 新町塾」の地域づくり

全国で最も古い町並みといわれる五條市新町通りを地域づくりの拠点としようとして、平成2年、「新町塾」(代表：山本陽一氏)が住民たち10人で発足した。

江戸時代の五條は、奈良への中街道・下街道や伊勢街道・西熊野街道・紀州街道などの要衝となり、宿場町として栄えた。新町通りは、旧紀州街道に面し、商業の町として栄えた。格子戸や土塀のある旧家や黒壁の土蔵などが約1km続き、慶長12年(1607)に建てられた国指定重要文化財の栗山家住宅もある。

同塾が五條市へ働きかけ、平成10年、街並み環境整備事業(管轄：国土交通省、事業主体：五條市)に認定された。歴史的景観の保存に取り組み、道路を昔の街道に似た舗装にした。現在は、河川の堤防の石畳化などを進めている。今年1月末には、新町通りに町並み保存の拠点となる「まちなみ伝承館」がオープンした

同塾では平成6年より毎年、5月の最終日曜日に町並みの軒下を使ってフリーマーケット「かげろう座」を開催している。市内を始め県内外から手作りの木工工芸品、地元の産物・食べ物、リサイクル品などの店が通りに並べられる。また、大正琴、大道芸人(南京玉すだれ、ガマの油売りなど)や地元の踊りも催される。最初は、新町通りだけで開催していたが、最近ではJR五条駅付近や近隣の商店街まで加わっており、昨年には出店が450店、お客は45,000人を数えるようになった。また、JR西日本が特別列車(天王寺~五条間)を用意した。



栗山家住宅



まちなみ伝承館



かげろう座